

定例研究会要旨

日時：平成 24 (2012) 年 12 月 5 日 17:40~19:40

会場：東京外国語大学 語学研究所

題目：「ヴォイスとその周辺 ～ウルドゥー語～」

発表者：萬宮健策（東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授/ウルドゥー語学）

本発表の目的は、受動態および使役動詞の例文を示すことにより、ウルドゥー語におけるヴォイスの特徴の一端を明らかにすることである。

1. 受動表現

他動詞完了分詞＋補助動詞 *jānā* (辞書の意味は「行く」) の変化。動作主は、具格後置詞 *se* をともなって表示され、後置格となる。自動詞の受動態は、否定文でしばしば用いられる。また、能動表現が可能な文は、あえて受動表現を用いない。なお、受動表現は他動詞完了分詞を用いるが、能格構文にならない。

また、能力的な不可能を示す場合は、否定の受動態で表す。

能動文：我々は、その本を読む

<i>ham</i>	<i>vō</i>	<i>kitāb</i>	<i>parhtē</i>
我々 NOM.1.pl	それ NOM.3.sg.	本 NOM.f.sg	読む PRES.m.pl.
<i>hai.</i>			
コピュラ PRES.pl.			

受動文：その本は、我々によって読まれる

<i>vō</i>	<i>kitāb</i>	<i>ham</i>	<i>se</i>
それ NOM.3.pl	本 NOM.f.sg.	我々 OBL.1.pl	によって INS.pp.
<i>parhī</i>	<i>jātī</i>	<i>hai.</i>	
読む PERF.f.	行く PRES.f.	コピュラ PRES.sg.	

以下の文は、不可能を表す受動態の例文である。

この荷物は、彼には持ち上げられない

1) <i>ye</i>	<i>sāmān</i>	<i>us</i>	<i>se</i>
これ NOM.sg.	荷物 NOM.m.sg.	彼 OBL.3.sg.	によって INS.pp.
<i>uṭhāyā</i>	<i>nahīn</i>	<i>jātā.</i>	
持ち上げる PERF.m.sg.	否定辞	行く PRES.m.sg.	

2. 使役表現

他動詞からの派生で、使役動詞が導かれる(動詞不定詞語尾は、例外なく nā. それより前が語幹).

sun-nā(聞く)	sun-ā-nā(聞かせる)	sun-wā-nā(聞かせしめる)
khā-nā(食べる)	khil-ā-nā(食べさせる)	khil-wā-nā(食べさせしめる)

場合によっては、自動詞も含めて4段階になる

dikh-nā(見える) dēkh-nā(見る) dikh-ā-nā(見せる) dikh-lā-nā(見せしめる)

使役動詞および二重使役動詞の例文を以下に示す.

彼は歌を聴いた

2) us	ne	gānā	sunā.
彼 OBL.3.sg.	ERG.pp.	歌 NOM.m.sg.	聴く PERF.m.sg.

彼はAに歌を(自分で歌って)聴かせた

2a) us	ne	A	ko	gānā
彼 OBL.3.sg.	ERG.pp.	A OBL.m.sg.	に DAT.pp	歌 NOM.m.sg.

sunāyā.
聴かせる PERF.m.sg.

彼は iPod を使って, Aに歌を聴かせた

2b) us	ne	iPod	se	A
彼 OBL.3.sg.	ERG.pp.	iPod OBL.m.sg.	で INS.pp.	A OBL.m.sg.

ko
に DAT.pp. gānā sunwāyā.
歌 NOM.m.sg. 聴かせしめる PERF.m.sg.

ウルドゥー語におけるいわゆる伝統文法では、他動詞の受動態が用いられる場合(例: 議論がなされた)と、自動詞が用いられる場合(例: 議論があった)とを明確に区別し、使役動詞と二重使役動詞とを明確に区別すると説明されてきているが、(上記例文 2a, 2bを参照)、今後はコーパスに基づく分析が必要となろう。